

「主の恵みを思い巡らす」

詩篇103：1-5

堀田修一 24・12・29

本日は、主の年（AD）2024年の最後の主日礼拝です。神が与えられた人生の中にある主の恵みを思い巡らし、感謝を捧げましょう。試練の中にも主の恵みがあることを覚える感謝の礼拝を捧げましょう。

I 試練の中でも人生の主の恵みを数える

1. ある人に友人が、カードを送ってくれました。長年にわたる交わりによる神の恵みが記されていました。読むうちに、感謝のカードを頂いた人の心にも神への深い感謝と喜びが湧いてきました。※感謝と喜びは伝染する。自分が神の器としていくらかでも用いられた感謝と喜びと同時に、その人が受けた恵みは、自分が神から色々な人を通して与えられたものと気づき、さらに感謝が湧いてきました。そのカードには「人生には、到達するゴールだけにその意味があるのではない。そこに至る途上、プロセスの上にも大きな意味がある」と記されていた。※聖書を土台としたカウンセリングの機関誌の表題。

ある人が、人生の旅路で大きな区切りの年を迎えた。これまでの人生の神の恵みを数え、これまでの歩みを振り返った。振り返る中で感じたことは、人生の様々な時に、イエス様が私の途（みち）に近づいて、共に歩んで下さったことです。「話し合ったり論じ合ったりしているところに、イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められた」ルカ24：15。ある人が、こう語ってくれた。「君は、自分の過去から力をもらう術を知らないみたいだね」と。それを聞かされた人は、その時、人生の大きな決断に迫られ、事の重大さに迷い、ひるむと同時に、深い苦しみの中に陥り、もがいていた。最初、聞かされた人は、その意味が分からなかった。自分の悩みは、現在の事で、また未来に関わることで、過去の事ではないと思った。それまでのこの人の生き方は、「過去を忘れ、将来に向かって目標を目指して進む」というものだった。深い苦しみともがきの中で「自分の過去から力をもらう」という新鮮な言葉をもらい、この人の生活の中に、いったん立ち止まって、今まで歩んだ道を振り返る事が少しずつ始まった。今日を主と共に生き、明日を主に期待するために、神が支配しておられた過去を振り返ることが始まりました。

2. 「あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ」箴言3：6。「あなたの恵みを思い巡らしました」詩篇48：9。「私は、主のみわざを思い起こそう。まことに昔からのあなたの奇しいわざを思い起こそう。私は、あなたのなさったすべてのことに思いを巡らし、あなたのみわざを静かに考えよう」77：11, 12。「主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな」詩篇103：2。キリスト教霊性の著者が「日ごとの生活の経験や出来事を思い起こし、思い巡らすことの大切さ」を述べている。それなくしては、生活の意味や意義を見出すことができないからです。

信仰生活で言えば、共に歩んで下さる主の御手が見えず、その御声も心の中で聞けない状態です。それは、自分の日々の生活で起きているさまざまな出来事や経験の中にある神の御支配

による意味が分からないということです。主がそこで何を語ろうとされているのか、どのように働いておられるのか、聴きとろうとも見出そうともして来なかったのです。意味を思い巡らすことなしに、ただ漫然と生活することがいかに多い事でしょうか。ですから、忙しく動いていても退屈している（そこに意味を見出していない）人がとても多い…思い巡らすことの伴わない生活は、ついには生きる意味が分からなくなってしまいます。意味を感じない惰性で動く人生は、「心の疲れ」とも言えるでしょう。神の御手にある過去、昨日を切り捨てる人は、今日の悩みに押しつぶされそうになり、明日の問題にたじろいでしまうのです。

「過去から学ぶ」というアドバイスは、私たちの人生の旅路に、新しい歩み方をもたらす恵みとなります。過去から新しい力を得ることの大切さを指摘した人は、その言葉と共に、詩篇のみことばを思い巡らす手ほどきもしてくれました。そのみことばを繰り返し思い巡らしながら、それまでの自分の歩みを振り返るうちに、絶望の闇が少しずつ消え、しぼんだ心に希望の光が差し込んでくる不思議な経験をしました。「私は切に 主を待ち望んだ。主は、私に耳を傾け 助けを求める私の叫びを聞いてくださった。滅びの穴から 泥沼から主は私を引き上げてくださった」詩篇40：1-2。

Ⅱ 人生の道を振り返り、新しい力と神と人への感謝が与えられる

1. ある人は、記憶している限りの過去をさかのぼり、それまでの自分の歩みを振り返りました。生まれた時から7年ごとに期間を区切り、ゆっくりと時間をかけて振り返る時を持ちました。思い巡らしながら、心に深く残っていることを書き留めた。主を信じる前の人生も主を信じた後の人生も神の深い御支配、御計画があります＝「あなたこそ 私の内臓を造り 母の胎の内で私を組み立てられた方です。私は感謝します。あなたは私に奇しいことをなさって恐ろしいほどです。私のたましいは それをよく知っています。私が隠れた所で造られ 地の深い所で織り上げられたとき 私の骨組みはあなたに隠れていませんでした。あなたの目は胎児の私を見られ あなたの書物にすべてが記されました。私のために作られた日々が しかも その一日もないうちに」詩篇139：13-16 1. 気づかされること→

①神が与えられる出会いの恵み。世界中の人とは出会えない。出会いには神の計画があると認めると感謝が増す。社会と教会での出会い。神が命を与えられた自分の人生の中で、神が出会わせて下さったいかに多くの人々から、どれほどの多くのものを受けて来たかという恵み。自分が今持っているものは、神が与えられた父や母、祖父、祖母、叔父、叔母、多くの師や先輩、仲間、友人、教会の方々から与えられたものであると神により気づかされます。※神が与えられた出会いと自然の恵み。主との出会いは最高！

②そして、そのすべての賜物の背後に、慈愛に満ちた父なる神がおられることに目が開かれ、私の人生に数えきれない贈り物、恵みを与えて下さった主に、心からの感謝が湧いてきます。

③こうした作業を何回か繰り返すうちに、摂理（神の不思議なご計画、御支配）の神の御手を、だんだんと自分の人生の中にも見出せるようになります。生まれ育った環境、これまでに与えられたさまざまな出会いや機会、若い時の夢や挫折、成功や失敗、そして自分の罪深さや愚かさゆえのつまずきも含めて、それらをすべて貫いて、人生全体の神の摂理（神の不思議なご計画、御支配）の導きとあわれみがあることが見えて来る恵みの発見！それら一つ一つを思い巡らす中で、次の詩篇が特別なものとなります。

「わがたましいよ。主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのもの（原語：私の内臓。意味：五体全部。全人）よ 聖なる御名をほめたたえよ。わがたましいよ 主をほめたたえよ。主が良くして下さったことを何一つ忘れるな（試練の中でも主の恵みを数えて感謝する）。主は

あなたのすべての咎を赦し あなたの全ての病を癒やし（死も天国への恵み）→あなたのいのちを穴から贖われる」詩篇103：1-4

Ⅲ 私たち個人と教会への神の恵み。これまでも、この一年も。賛美413の歌詞「数えてみよ主の恵み」

主の祈り（「私たち」個人と教会の祈り）への答え＝

- ① 神の御支配、福音が心に広がっている。日ごとの糧が与えられている。自分の罪の負い目が赦されている。神に赦されている自分も他の人を赦す者に変えられる。今年も試練の中で神は私たちを支え、色々な悪から守られた。
- ② 教会。礼拝、宣教、みことばによる成長、御国、神の御支配の拡大。永遠のいのち。各奉仕の守り。セルや他の交わりでの支え合い。受洗者、転入会者が与えられた恵み。教会の必要の満たし。主の愛で愛し合う恵み。※何一つ当たり前はない。試練も神に近づく益へ。すべては神の恵み！応答の賛美をもって神に感謝し神を賛美しましょう！